

★Verda Placo 2022 aŭtuno

みどりのひろば 2022年 秋

N-ro 61

Harima Esperanto-Societo(はりまエスペラント会)



dalio

第 71 回関西エスペラント大会実行委員会報告

事務局

6月30日(木)1回目、KLEGから木元会長、竹森組織部長の隣席、はりまから8名が参加した。各役割と今後の日程を確認しあった。

8月4日(木)2回目を行い、会場はイーグレ姫路のあいめっせホールと会議室1・2・3・4・5・6号と和室1・2を確保した。

公開講演をお願いしている能楽師 江崎欽次郎さんも会合に参加され、より細かく打ち合わせた。

10月6日(木)3回目の会合を開いた。

KLEGより竹森組織部長が隣席の元、8名で打ち合わせた。

まず、予算案の検討をしKLEGに提案する。大会記念品の決定 “*Studoj pri la Esperanto literature*” にする。

Informilo の作成についてと納期の確認。分科会の今後の展開と Gaja vespero の公募または打診を確認しあう。

次回は12月8日(木)13:30~

現在の進捗状況

第 71 回関西エスペラント大会

La 71a Kongreso de Esperantistoj en Kansajo

1. 日時・会場 (決定)

日時: 2023年6月3(土)~6月4日(日)

会場: 姫路市国際交流センター「イーグレひめじ」

〒670-0012 姫路市本町 68-290 TEL079-287-0820

主催: はりまエスペラント会 <http://esperanto-harima.net/> 一般

社団法人 関西エスペラント連盟 <http://kleg.jp/>

後援: 姫路市、姫路市教育委員会、公益財団法人姫路市文化国際交流財団

2. シンボルマーク(決定)

国宝で世界遺産でもある「姫路城」を象徴する真っ白なもち肌とお城の帽子、桜の髪飾りがトレードマークのやさしいお姫様です♪



3. 大会テーマ:(決定)

「歴史と文化のまち姫路でつむぐエスペラントの思い」

"La ideo de Esperanto, ŝpinata en Himeji, historia kaj kultura"

4. 大会前遠足(検討中)

参加希望者は6月3日の午前中に姫路城散策、案内は未定

5. Bankedo

実施しない方向で進める。

6. 一般公開講座(決定)



講師:江崎欽次郎

講演テーマ(仮):「姫路城とお殿様」-ご当地曲「高砂」について

プロフィール:(公益財団法人兵庫県芸術文化協会のホームページより)

江崎欽次郎 Esaki Kinjiro 能楽(ワキ方福王流)

姫路市出身。江崎家は元禄年間より続く姫路藩お抱え能役者。

12歳にて初舞台。平成26年、重要無形文化財総合指定保持者認定。平成27年3月、湊川神社神能殿にて江崎家当主、十二世欽次郎を襲名平成30年度兵庫県芸術奨励賞、令和元年姫路市芸術文化賞を受賞。

7. コンサート(仮決定)

出演(仮):なんちゃんず

演奏：ギター、フラットマンドリン、フィドル（バイオリン）

ホールを使う番組を検討してから決定する。

プロフィール：なんちゃんず

はりま地区で活躍するアコースティック・バンド。

軽快な演奏と、心にしみる歌声をお楽しみください。

8. 分散・分科会

10～12の分散・分科会を計画しています。近日、公募いたします。

常設的な分科会は実行委員会より依頼をする。

9. Gaja Vespero 演目など未定。

希望者を募り、組み立てはこれからです。

江崎氏から「しの笛」上月氏から落語か玉すだれ、などなど

10. 大会記念品（決定）

“Studoj pri la Esperanto literature” Vilmos Benczik著

11. 予算案（作成中）

11月19日のKLEG委員会に提出予定

参加費、値上げ時期の変更等も検討する必要がある。

参加者数150名では予算不足になり、165名～180名で検討中
諸経費等の値上がりも視野にいれて、検討しなければならない。

12. Informilo（未作成）

11月15日までには作成する必要がある。

LM 2023年1月号には折り込み、受付を開始する。

13. 大会書店（仮決定）

6月3日（土）12時開店。書物は10時まで必要。

荷物は郵便局留めで送り、当日朝受け取りに行く。

14. ポスター、チラシ、看板など

これから細部において検討をする。

役割担当をきめて、進捗するのの一考か。



Ekflugo por "Navigado ĉirkaŭ la mondo"

TADA Ryuji

Antaŭ 82 jaroj (1939) aŭgusto, ekflugis La dumotora transporta aviadilo "la Nippon" por ĉirkaŭiri la mondon.

Ĝi apartenis al la ĵurnaloj Osaka Mainichi kaj Tokio Nichi Nichi Shinbun(nun Mainichi Shinbun).

Ĝi flugis 52 860 kilometrojn en 56 tagoj.

Ekflugo < 9/30~10/6 >

La 29-an de septembro 1939, Nippon neplania alteriĝis sur Santos, Brazilo.

Originala komenca celata loko Sao Paulo ni volis viziti, sed ni iris devigite al Rio-de-Janeanejro per direkte al la brazila armeo en la 1-a de oktobro. La 4an ni flugis al Natal. Ni jam flugas transirinte la atlantika. En septembro, la soveta armeo invadis Pollandon post la germana armeo. Afriko jam estas en militjura zono, kiam la milito intensiĝas en Eŭropo.

Germanaj kaj francaj aviadaj kompanioj, kiuj havis regulajn flugojn, ankaŭ nuligis la flugojn pro la milito.

Tamen, Francio kontaktas sendrate, Germanio donas informojn ventodirekto kaj rapideco, Ili subtenis laNipona-n.

Je 0:48 matene la 5an foriru de Natalo. Ni havas la duan noktan

flugon ekde transiro de Pacifiko.
Kapitano Nakao kaj Piloto Yoshida
estas en la kajuto.

Je la 4:25 a.t.m., estis la dua fojo
transiri la ekvatoron en ĉi tiu
granda flugo.

Ni planos vidi la ombbron de afrika
insulo 11 horojn post la ekflugo,
sed mi ne povas vidi la ŝipon aŭ
teron. Ĉirkaŭ unu horon postreste,
subite aperis Dakaro en Franca

Okcidenta Afriko (nun Senegal). Ni povis konkeri Atlantikon en 12
horoj. Ĝi estis la dua plej granda flugo post transiro de Pacifiko.

Ĉe la Dakara flughaveno soldatoj gardas kun pafilojn, kaj kakiaj
soldatoj iras en grandaj paŝoj ĉirkaŭ en la urbon. Frumatene de la 6an,
ni direktis frugi nin al Maroko,

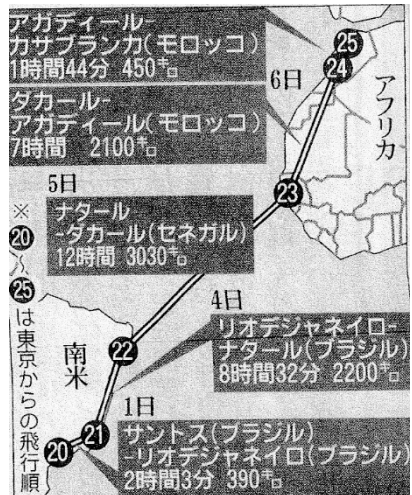
kiu estis protektorato de Francio. Ni surteriĝis en Agadir unufoje
komandite de la franca registaro.

Poste iru al Kazablanko, kreturbo en la dezerto.

Teknikisto Saeki zorge inspektis la aviadilon ĝis nokto por malsato.

Ni finfine flugas en la militŝirita eŭropa ĉielo.

<Daŭrigita al la sekva numero>



2022年 はりま・神戸合同エスぺラント祭案内 (2022 Zamenhofa Festo)

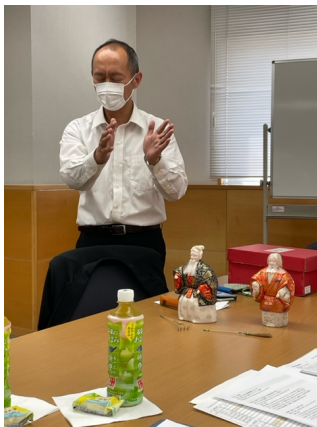
日時：2022年12月10日（土）午後1時半～5時 午後1時集合）

会場： 東播磨生活創造センター内会議室A（2F）

（JR加古川駅より南徒歩五分）

会費： 500円

皆様の参加をお待ちして
います。



第2回

実行委員会で熱弁をふるう
江崎講師



“なんちゃんず”

例会の記録 Kie, kiam, kiuj kunvenis kaj kune lernis?

<姫路:イーグル・ボランティア室又は会議室>午後1時半~4時

7月14日(木) 中村、大前、中川、山岸

7月28日(木) 中村、大前、中川

8月25日(木) 中村、大前、中川

9月21日(木) 中村、大前、中川

8/11(木)は祝日、9/8は休会しました。

“Hanako lernas Esperanton”, 作文、朗読劇練習、歌

<加古川:生活創造文化センター>例会は休会中、代わりに

Skajpo 学習は毎週水曜日 20時~21時

10回 延べ20名、11時間21分でした。

大半はBabilado です。特に関西大会についての内容が多かった。

今後の予定 Kie, kiam ni kunvenos?

★姫路 毎月2回 第2,4木曜日を原則として行う。

★加古川(しばらくは、休会します。)

★**Skajpo** (毎週水曜日 20時~21時)

どなたでも参加してください。(コロナには強い!)

編集後記: 9年ぶりに姫路で第71回関西エスペラント大会を開催することになりました。実行委員会も3回を重ねました。少しは前に進んでいるだろうか? 机上の空論になっていないだろうか? 大会は会場で行われることを忘れていないだろうか。もう一度視点を変えてみたい。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

Verda Placo” (みどりのひろば) n-ro61 2022年 10月20日

発行: はりまエスペラント会 Harima Esperanto-Societo

(671-1222 姫路市網干区宮内106-3 稲田正昭)

編集: 多田龍二 明石市西明石町5-6-2 tadaryuji72@gmail.com

